

ダイナベクター株式会社

PRINTED IN JAPAN Ge-137 8402800 I

電磁粘性・質量分離型
ダイナミックバランストーンアーム

ダイナベクター DV 507

取扱説明書

ダイナベクター株式会社

このたびは、ダイナベクタートーンアームDV-507を、お買い上げいただきまことにありがとうございます。

DV507は水平、垂直の2方向に慣性力を分離させることによってレコードに刻まれた信号を、レコードのそりに影響されることなくそのままカートリッジを通じてアンプへ送りこむことを目的に設計された高性能トーンアームです。

DV507は、一般的アームにくらべて機械的に複雑になっております。最高の機能をひき出すには、若干の調整が必要としますので、御使用前にこの説明書をお読み下さい。

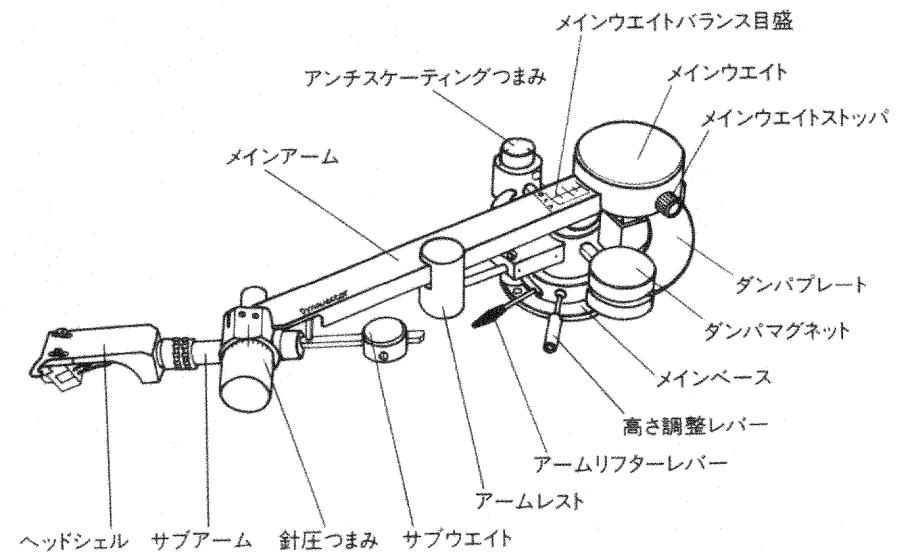


Fig. 1

DV507は取りつけの際に、プレイヤーボードの所定の場所へ穴をあける必要があります。付属の紙のテンプレートを用いてプレイヤー上の穴あけ位置を求め、直径29mm又は30mmの穴をあけて下さい。

穴があきましたらDV507のメインベースをこの穴へ仮にセットします。メインベースには、木ネジを通す小穴が3ヶ所設けてありますから、そこにキリ等の先の鋭い工具で下穴をあけ付属の木ネジで固定します。

このトーンアームには、メインベースとプレイヤーボードの間に敷くフェルト、ゴム等のシートはついておりません。

プレイヤー側に振動とかの問題がなければ、トーンアームとプレイヤーは直接しっかりと固定した方が良い結果が得られます。

御注意

- 木ネジ用の穴をあける時は、いったんアームをプレイヤーからはずして梱包箱に戻しておいて下さい。アームをセットしたまま下穴をあけますと、アーム本体に傷をつけたり、アームの機能を損なうことがあります。

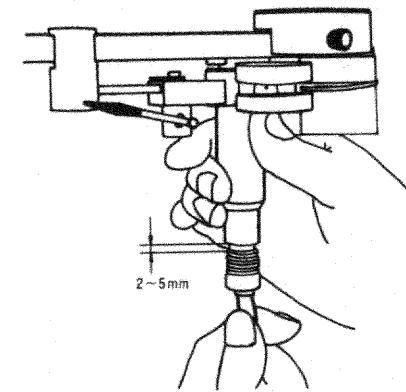


Fig.2

出力コードの取りつけ

アーム下部の出力端子に付属の出力コードコネクターをさしこんで下さい。出力端子とコネクターが内部で密着した状態でもプラグ側に、2mm~5mm位の余裕を設けてあります。これは、市販されている他のコードでもお使いいただける構造にしてあるためで、ミスコネクトではありません。(Fig.2参照)

カートリッジをDV507に取りつける場合には、お手数でも、次の手順にて各部のチェック、調整を行って下さい。

- (1)ダンバープレートの接触のチェック
- (2)シェルとカートリッジの取りつけ時のオーバーハング調整

(3)メインウェイトのバランス位置のセット

(4)針圧のセット

(5)アームの高さ調整

(6)アンチスケーティングのセット

それでは以下に各項目の説明をいたします。

(1)ダンバープレートのチェック

メインアームを指先でつまんで静かに左右に動かしてみて下さい。ダンバープレートが曲がっているなければアームはスムースに回転しますが、曲がってダンバーマグネットに触れているとその部分で金属のこすれ合う音がし、回転の抵抗も大きくなります。この場合には、ダンバープレートの変形している方向を確認し、指で反対側に押して直して下さい。(Fig.3の指先の部分)(この

プレートは銅ですので比較的容易に変形します。調整後はさわったり物をぶつけたりしないでください。また電磁制動をかけるためメッキがかけられません。塗装仕上げとなっていますので塗装面に傷をつけぬよう御注意下さい。)

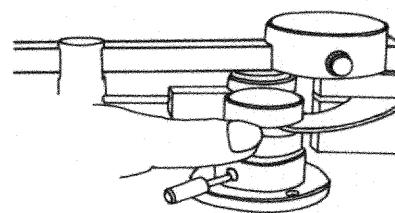


Fig.3

(2)シェルとカートリッジの取りつけ:

シェルにカートリッジを取り付けたあと、付属のアルミ製テンプレートをシェルのコネクター部に差し込んで下さい。テンプレート上のスタイルスチップを示す穴にチップが来るようカートリッジの位置を調整してカートリッジを固定して下さい。(Fig.4)

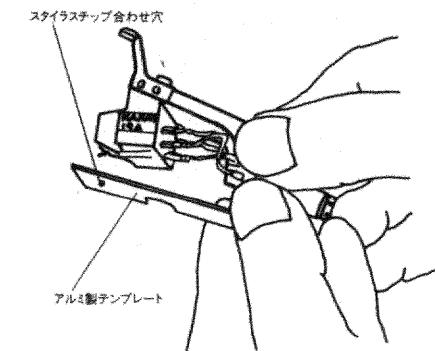


Fig.4

(3)メインウェイトバランス位置のセット

DV507は水平、垂直方向に完全に動作を分けたアームで、水平方向は他のアームに比べて大変重量が大きい設計になっています。この大重量を持ったメインアームを感度よく回転させるには、メインウェイトのバランスをとる必要があります。本アームでは、サブウェイトA.B.Cがありどれを使うかで調整法が若干異なります。

そのためには、シェルとカートリッジの重さの合計を調べて下さい。付属シェルの重量は15grですから、これにお使いになるカートリッジの重さを加えて下さい。この重さの合計によってサブウェイトを下表のように使いわけて下さい。

〈表・サブウェイトの使いわけ〉

	総合自重	サブウェイトタイプ
シェル付 重さ	15~23gr	A
	20~33gr	C
	25~35gr	B

メインアーム上には使用するサブウエイト別に、目盛がふってあります。この目盛にメインウエイト前端部を、先に調べた総合自重に合わせて下さい。

例えば、総合自重が20grであればサブウエイトAを用いメインウエイト前端部をAの目盛の20の位置に合わせればよいことになります。(Fig.5)

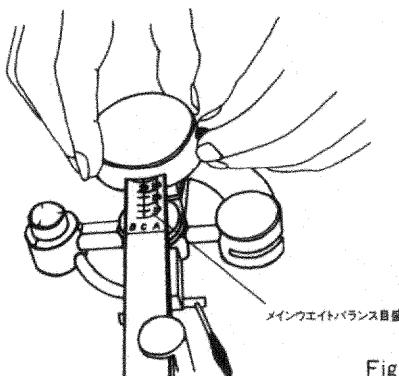


Fig.5

(4)針圧のセット

付属のサブウエイトのネジ頭がついている側を手前にしてサブウエイトバーに押しこんで下さい。(ネジ頭が向う側ですと押しこめません…Fig.6)

針圧つまりの目盛を0に合わせてから、サブウエイトを前後にスライドさせてサブアームの水平バランスをとります。バランスがとれましたら、針圧つまりを回して必要な針圧を印加してください。針圧目盛は0.2 grきざみで目盛間は針圧に比例しています。

御注意

サブウエイトバーは先端に力を加えると上下左右にわずかに動きますが、これはダンピングをかけているためで、軸受等のガタではありません。

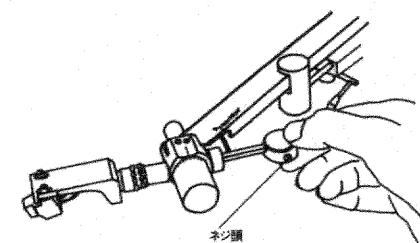


Fig.6

高さ調整レバーにより7mmの微調整が可能です。

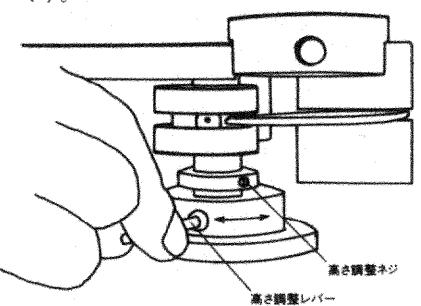


Fig.7

(5)アーム高さ調整

高さ調整ネジをゆるめて、アーム全体を持って上下させ、サブアームとレコード面がほぼ平行になる位置で固定します。次にトーンアームをレコード面にのせた状態で高さ調整レバーをゆるめ、左右に動かして微調整します。高さが決まりましたらその位置で高さ調整レバーをしめつけ固定してください。(Fig.7)

(6)アンチスケーティングのセット

使用的する針圧によってアンチスケーティングのダイアルを回して指示値を合わせてください。通常の場合アンチスケーティングの目盛は針圧に対応するよう設計していますが、インサイドフォースは針先形状、レコードの録音状態により変化しますのでその場合には、ダイヤルを回して最適な位置に目盛を合わせてください。

以上でDV507のセッティングは全て終了しました。

このアームは、通常の使用条件では摩耗するパーツはありません。どうぞ末永く御愛用下さい。

しかしながらアームを落下させた時や、ほこりの多い環境に長時間放置された時には感度が落ちできます。その場合には分解掃除が必要ですのでお買い上げのお店か、私共に直接お申しつけ下さい。

- 型式……………電磁粘性方式質量分離型サブアームダンパー付ダイナミックバランス・トーンアーム
- 全長……………306mm(シェル付)
- 有効長……………241mm
- オーバーハング……………15mm
- オフセット角……………21.5°
- 全高……………59mm(最高92mm)
- 高さ調整範囲……………39~72mm(サブアームパイプ中心)
- 適合カートリッジ重量……………15~35gr(シェル共)
- 針圧可変範囲……………0~3gr(0.2gきざみ)
- トラッキングエラー角……………-1.1°~+2.2°(レコード内周で0°、外周で20°)
- 動作感度……………水平……50mg以下
垂直……40mg以下
- 出力コネクター……………5pコネクター 低抵抗コード 0.025Ω/m, 50pF/m(1kHz)
- ヘッドシェルコネクター……………EIA規格4pコネクター
- ヘッドシェル……………アルミ引き抜き、削り出し(自重15gr)
- アーム自重……………1,380gr

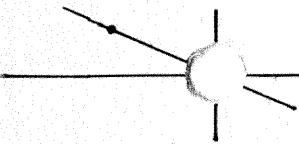
Stylus Point



507

Mounting Template

Arm Center



Turtable Spindle

Dynavector Systems, Ltd.

φ 29